

# 白 い ま ど

MAY  
**5**

## 特集 静岡県で初!

だいどうみやくべんぎょうさくしょう

## 「大動脈弁狭窄症」の新しい治療法 「TAVI(タビ)」認定施設に P-2

2014年4月TAVI治療初症例の様子



- 最新ニュース 看護師国家試験にEPA外国人看護師候補生3名が合格しました! P-5
- 栄養カード あなたに必要な食事の量は? P-6
- 情報カード 患者さんの安全への取り組み その1. P-8
- 外来紹介 精神科 P-9



▲実際にカテーテルにより  
植え込まれた人工弁

### 病院理念

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合  
病院

聖隷浜松病院

## 静岡県内で初・全国で24院目のカテーテルによる人工弁置換術

# 「TAVI」<sup>タビ</sup> 認定施設に

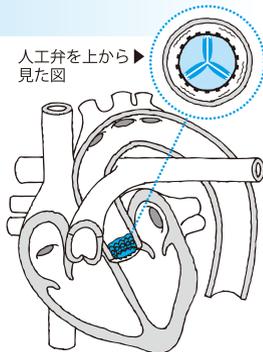
聖隷浜松病院は、2014年3月、「大動脈弁狭窄症」<sup>だいでうみやくべんきょうさくしやう</sup>の新しい治療法「経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)」<sup>タビ</sup>の認定施設となりました。全国では24院目、静岡県内では初の認定となります。

### 高齢化に伴って増加している病気 「大動脈弁狭窄症」

もっとも重い心臓弁膜症のひとつである「大動脈弁狭窄症」。心臓の4つの弁の中でも、全身に血液を送り出すのに重要な大動脈弁が硬くなり、開きにくくなる進行性の病気です。高齢や動脈硬化が原因といわれ、重症になると、胸の痛みや失神、安静時でも息切れするといった症状があらわれ、突然死に至るケースもあります。

### 外科手術をあきらめてきた人に 新たな治療の道

従来、この病気に対する唯一の治療法は開胸手術による人工弁置換術でしたが、高齢であることや合併症などのため手術のリスクが高く、手術を断念された患者さんも少なくありませんでした。そこで、そのような患者さんのための新しい



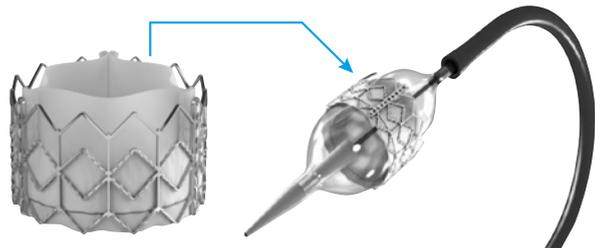
人工弁を上から見た図

▲人工弁を心臓に留置します

治療法として開発されたのが、カテーテルによる人工弁置換術「TAVI」<sup>タビ</sup>です。海外では既に10万人近くの患者さんがこの治療を受けています。

### 胸を開かず、心臓も止めず、 身体への負担が少ない治療法

患者さんにとってこの治療法が一番のメリットは、身体への負担が少ないことです。「TAVI」<sup>タビ</sup>は、足の付け根の血管からカテーテルを使って人工弁を心臓に挿入する治療法で、従来の弁置換術のように胸を開いて人工心肺を使用したり心臓を停止させたりする必要がありません。そのため、ご高齢や他に病気があることで、従来は手術が受けられなかった患者さんでも治療が可能となりました。



■カテーテルで心臓に挿入する人工弁

## 「<sup>タビ</sup>ハートチーム」による 究極のチーム医療

「<sup>タビ</sup>TAVI」は、心臓病を治療するスタッフ（外科医・内科医・麻酔科医・臨床工学技士・看護師・放射線技師など）がチームで行う高度な治療法です。当院では、多職種からなる「ハートチーム」を結成して治療にあたっています。

同じ病気でも、この治療法に適しているかどうかは専門的な判断が必要となります。この治療法に関するご相談・ご質問は、かかりつけの先生を通して、当院心臓血管外科あるいは循環器内科にご連絡ください。

### お問い合わせ先（医療機関専用）

- ▶ 地域医療連絡室（JUNC）  
☎ 0120-107-352    FAX 0120-107-362
- ▶ 循環器センターホットライン  
TEL 053-474-2793

### 担当医師

- ▶ 心臓血管外科 小出 昌秋    ▶ 循環器内科 岡 俊明

「<sup>タビ</sup>TAVI」は、関連学会および厚生労働省により認可を受けた施設のみで実施可能な治療法です。当院は、2014年3月に保険により治療を行うことができる施設の一つとして、正式に認定されました。

文責：心臓血管外科 小出 昌秋

最新  
NEWS

静岡県で初！/

看護師国家試験に  
EPA外国人看護師候補生3名が  
合格しました！

### EPAとは・・・

経済連携協定（Economic Partnership Agreement）の略称。関税の撤廃や規制緩和により物流やサービスの自由化を目指す条約である自由貿易協定（FTA：Free Trade Agreement）を基に、人の移動や投資など幅広い分野での親密な関係を強化することを目指す条約をいいます。

- 当院ではこのEPAに基づき、2011年11月から外国人看護師候補生を受け入れています。医療のグローバル化が進む中で、医療・福祉における国際化への取り組みとして、看護師・事務職員による専属スタッフをはじめ、病院全体が一丸となり、候補生をサポートしています。
- 2013年度は7名の候補生が看護補助業務をしながら、看護師国家試験の合格を目指して勉強を続けてきました。そして見事3名が合格することができました。この浜松の地で、よりよい医療の提供のために努力を続けていきますので、応援よろしくお祈りします！

## あなたに必要な食事の量は？

みなさんは、普段食べている食事の量を意識したことはありますか？一日に必要な食事量は一人ひとり違います。肥満などの生活習慣病を予防するためにも、必要な食事量の目安を理解して、普段の食事を見直してみましょう。



### 一日の摂取カロリーの見直し

カロリーは食事の量の目安となります。今回は「標準体重」から一日の摂取カロリーの目安を計算してみましょう。

1 標準体重を計算します。  

$$\text{身長(m)} \times \text{身長(m)} \times 22 = \text{標準体重(kg)}$$

2 一日の摂取カロリーの目安がわかります。

$$\text{標準体重(kg)} \times 30 \sim 35 \text{kcal} = \text{目安}$$

例 (例)身長150cm の人の場合  
 $1.5 \times 1.5 \times 22 = 49.5 \text{kg}$  **標準体重**

- あまり動かない人の場合  
 $49.5 \times 30 = 1,485 \text{kcal}$  が一日の摂取カロリーの目安です。
- よく動く人の場合  
 $49.5 \times 35 = 1,733 \text{kcal}$  が一日の摂取カロリーの目安です。

※年齢・性別から計算する方法もあります。

### 1日約1500kcalの例



### 食事のバランスも大切です

- **主食**  
炭水化物…ごはん・めん・パンなど
- **主菜**  
たんぱく質…肉・魚・卵・大豆製品など
- **副菜・汁物** (または副菜2品)  
ビタミン・ミネラル…野菜・海藻・きのこなど



※食事療法をされている方は、担当医または管理栄養士の指示に従ってください

▶参考資料:厚生労働省HP 肥満を防ぐ食事 ▶文責:栄養課 村松 理沙(管理栄養士)

シリーズ 聖隷浜松病院の  
患者さんの安全への取り組み——その1.

## “患者間違い”を防ぐ

当院は、国際的病院機能評価機関であるJCI(Joint Commission International)の認証を2012年11月、日本で5番目に取得しています。

その審査項目は1200以上に及びますが、患者さんの安全を保護する仕組みの整備と徹底が厳しく評価されます。現在当院では、特に以下の5項目の防止を強化しています。

- ① 患者間違い
- ② 医療者間のコミュニケーションエラー
- ③ 薬剤の不適切な使用
- ④ 手術部位間違い
- ⑤ 医療に関連した感染

いずれも注意して当たり前の内容ばかりですが、実は世界中でこの5項目が防止できないために患者さんの安全が脅かされていることがわかっています。

日本でも手術患者さんが間違えられた、別人の薬を投与されたなどという報告があります。

当院では、患者さんを正しく確認するために、様々な場面で「お名前」と「生年月日」の2項目をお伝えいただいています。

ご自身で伝えられない患者さんに対しては別の確認方法を定めています。

ご面倒をおかけしますが、安全な医療を提供するために、皆さんのご理解・ご協力をお願いいたします。



文責：CQI室 梶間 弘美

## 精神科

担当  
主任医長  
堀雅博  
ほりまさひろ  
出身地／静岡県  
▼出身校／京都大学(1986年卒)  
▼趣味／旅・自然・イタリア



## からだの病気？ 心の病気？ 患者さんが心身ともに健康を取り戻すために

俗に「健全な精神は健全な身体に宿る」と言いますが、こころ<sup>つな</sup>からだの繋がりは昔から人々が関心を寄せていた問題で、逆に「健全な身体は健全な精神に宿る」とも言えるかもしれません。生身の人間である以上、こころとからだ<sup>つな</sup>が相互に影響し合うのは、考えてみれば当然なことで、心身症、身体表現性障害、うつ病など、心身の関連が見て取れる疾患は決して少なくありません。そしてその関連のしかたは、個人の性格や生活史まで含み込んだ独特なものです。

からだの調子を崩して身体科を受診したものの、原因が見つからなかったという経験はありませんか？ もしかしたらそれはこころの病気に伴うものかもしれません。

私たちは総合病院の精神科として他科と連携しながら、こころとからだの健康について考えていきます。